

令和元年度 第2回 静岡市健康福祉審議会 児童福祉専門分科会 議事要旨

- 1 日 時 令和元年7月25日(木)午後6時30分～午後8時30分
- 2 場 所 城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟3階 第1・2研修室
- 3 出席者 (委員) 白木委員(会長)、大橋委員、垣見委員、佐々木委員、
下山委員、寺尾委員、増田委員、松本委員、三森委員、
村山委員、望月健太委員、望月ふみ子委員
(欠席) 飯田委員、田中委員、服部委員
(事務局) 安本子ども未来局長、杉山子ども未来局次長、
橋本参与兼子ども未来課長、金丸青少年育成課長、
安本幼保支援課長、安竹こども園課長、
稲葉参与兼子ども家庭課長、松下児童相談所長、
加納教育局理事(教育総務課長)、栗田児童生徒支援課長、
萩原障害福祉企画課長、戸塚障害者支援推進課長、
その他事務担当職員
(その他) ㈱サーベイリサーチセンター静岡事務所 田原氏(静岡市子ども・子育て・若者プラン策定業務委託業者)
- 4 傍聴者 2人
- 5 議題 (1) 保育所等の設置認可等に係る意見聴取について
(2) 「静岡市子ども・子育て支援プラン」平成30年度進捗状況について
(3) 「第2次静岡市子ども・若者育成プラン」平成30年度進捗状況について
(4) 「(仮称)静岡市子ども・子育て・若者プラン」案について
(5) 教育・保育の量の見込み及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて
- 6 報告事項 (1) 静岡市医療的ケア児等支援協議会について
- 7 会議内容

■議題(1) 保育所等の設置認可等に係る意見聴取について(資料1)

○増田委員(質問)

移行特例は、いつまでなのか。

⇒子ども未来課

この制度は、平成27年度から始まっており、制度施行から10年を目安に、その時の活用状況等を踏まえて検討することとなっている。まだ制度の施行期間中であり、5年後に見直しの期間に入る予定である。

■議題（２）「(仮称) 静岡市子ども・子育て・若者プラン」の策定について

(資料２－１、２－２、２－２別添)

■議題（３）「第２次静岡市子ども・若者育成プラン」平成３０年度進捗状況について

(資料３、３別添)

※議題（２）、（３）をまとめて質疑応答。

○白木会長（質問）

資料３の「廃止した事業」について、私たち委員が特段知っておいた方がよいことや、何か触れておいた方がよいことがあったら教えていただきたい。

⇒青少年育成課

資料３の２面に、進捗状況D評価のもの、評価対象外のもの、平成３０年度で廃止した事業について一覧表を掲載している。

廃止した事業は７事業あり、和田島少年自然の家自然体験活動（主催事業の実施）、和田島少年の家自然体験活動（利用者受入れ）、消防フェア、不審者情報等のメール配信、少年団体運営費補助金、青年期精神保健研修会、ジュニアインターンシップ推進事業である。廃止理由はその右側に記載している。

○増田委員（質問）

廃止事業の中の「和田島少年の家自然体験活動」については、小学校や幼稚園、保育園の宿泊体験をしているところが多くあったと思う。特に夏場は希望の日程が取れず、予約が取れないくらいであったようだ。老朽化してきているとは思いますが、リニューアルに向けた検討について、具体的な内容はあるのか。

⇒教育総務課

和田島少年自然の家については、建物が老朽化して非常に危険な状況であり、４月１日より休止としている。急傾斜地にあるため非常に危険な状況でもあり、その対策をしなければならぬ。再開や建物をどうしていくかについて、現在、検討しているところである。

○下山委員（意見）

私自身も地域の住民として、和田島少年の家は何回も利用した。小中学生はもちろん、不

登校の児童生徒の体験や子ども会、スポーツ少年団など、大変幅広く利用されてきた。老朽化や耐震の問題もあると思うが、地域や子どもたち、青少年にとって大変有益な施設であるので、ぜひ具体的な再建に向けての方策を取っていただくようお願いしたい。

○白木会長

要望も含め、関係課で受け止めていただきたい。

○望月健太委員（質問）

資料2-1「地域子ども子育て支援事業」の2ページ目の（5）「乳児家庭全戸訪問事業について、対象の人数とパーセンテージの記載があるが、かっこ内のパーセンテージは、訪問率か、それとも面談率のどちらか。

⇒子ども家庭課

全戸訪問で、実際に訪問して会った率である。

○望月健太委員

問題がある家庭ではなかなか面談ができないところも多くあると思われる中、非常に高い数字だったので確認した。

○村山委員（質問）

一点目、同じく資料2-1、（3）「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」で、待機児童が86人であったと記載がある。新聞等では、待機児童は少なくなり、0になったような報道があったと思うが、まだ静岡市でも待機児童はいるのか。

二点目、資料2-2のNo.22「放課後子ども教室推進事業」とNo.23の「放課後児童クラブと放課後子ども教室の実施」は、一緒に行われたものか、または個別にわかれたものか。数字に重複はないのか。

⇒子ども未来課

一点目、新聞等で報道されている「待機児童ゼロ」は、就学前の保育を要する子どもの待機児童が、昨年と今年の4月1日に二年連続でゼロであったということである。質問があった待機児童は、放課後児童クラブについてであるが、こちらはまだ解消はされていない。2年ほど前は300人程度の待機児童がいたが、昨年は170人程度、今年の5月1日では80人程度と減少してきている。放課後児童クラブでも待機児童ゼロを目指し、現在、施設整備等の

対策を取っているところである。

二点目は、資料2-1の最下段「総合的な放課後子ども対策の推進」のことだと思われる。一体的な実施というのは、放課後児童クラブを実施している学校で、放課後子ども教室も実施し、二つの事業を実施している場合である。

○下山委員（意見、質問）

資料2-2の5ページ、22番、放課後子ども教室推進事業について、私は放課後子ども教室と放課後児童クラブの一体型についての別の協議会委員会に出席しているが、私のところでは本年度新しく放課後子ども教室を新設した。6月と7月に準備のため様子を見たところ、スタッフは熱心に子どもたちに関わっており、子どもたちは楽しくやっていて良いと思ったが、スタッフの会話から学校や先生への依存が強い様子が見受けられた。区ごとに安全管理や事故対応についての「スタッフ研修会」をやっているということだが、新設のところにはできるだけ早くやっていただきたい。年間2回の研修会の時期はいつか。

⇒教育総務課

スタッフの研修会は、本日実施したところである。本年度は開設校が増え、新しくスタッフになった方々を対象に、子どもたちの安全管理についての研修会を3区に分けて行っており、清水区は7月、駿河区と葵区は8月に行う。また11~12月頃、子どもたちへの対応について、同じくスタッフを対象とした研修会を行う予定でいる。

学校応援団と放課後子ども教室のコーディネーターの合同研修会は6月に1回目を実施し、年明けの1月に2回目を実施する予定である。内容を検討しながら、充実した内容にしている。

■議題（4）「（仮称）静岡市子ども・子育て・若者プラン」案について

（資料4、4-1、4-2、4-3）

○寺尾委員（意見、質問）

資料4-3、新プランの基本理念の考え方の「静岡市民が一体となって（つながりあって）子どもとその保護者を支えていく」について、私は民生委員をやっており、現在、地域のつながりが非常に薄くなっているのを感じている。地域に長く住んでいる人でも隣に住んでいる人や、小中学生のこと、特に小さな子どものことは、幼少期から保育園等に預けられているため殆どわからない。それを敢えてこの基本理念に掲げたのは、かなり難しいことだと思うが、どう考えているのか。

⇒子ども未来課

お話のとおり、地域で人とのつながりが薄くなっていることや、子育ての孤立感ということがよく言われているが、新プランとしては地域社会を含む社会全体で子育てを推進していきたいというのが一つ大きな核となっていくと思う。こういうところにぜひ力を入れていきたいと考えている。

○寺尾委員（質問）

具体的な例や、どのようにやっていくか、方向性はお持ちであるか。

⇒子ども未来課

現プランでも、「地域子ども・子育て支援」ということで、地域全体で子どもと子育てを支援するまちづくりというものを掲げており、既に事業を進めている。記載の事業は当然にその機能は継続していくが、今後プランを策定する中で更に付け加えていくことができないか検討していくことを考えている。

○白木会長（質問）

資料４－３の基本理念の例の文言と、資料４－２の骨子、体系図の黄色の部分の文言の関係や違いについては、どう考えればよいか。

⇒子ども未来課

資料４－２は、前回示したままであるが、現在の両プランの文言をつなげただけのような形になっている。これから、基本理念について、どういった文章にするのかを決めていくが、資料４－３に示したほうがその基になり、これをベースにこれから検討していきたいと考えている。最終的には、資料４－２の一番上の部分が新しい基本理念に書き換わるようになる。

○望月健太委員（質問）

資料４－２の体系図について、左側の２の２の（１）困難を抱える子ども・若者とその家族への支援【施策の柱３】は、右側の体系図ではどこに含まれているのか。文言がなくなっているが、それはどこかに取り入れられているという認識でよいか。

⇒子ども未来課

これは資料４－２の右側では、赤字の部分で、内容に応じて、基本目標１の１の（３）から（５）の中に入るものと考えている。

○垣見委員（意見）

同じところへの意見で、左側の2の2「困難を抱える若者を支え安心して暮らせる環境づくり」は、右側では1の(3)(4)(5)、3の(4)の所になると思うが、子ども・若者ということに関しては、これが一番重要ではないか。特にひとり親家庭には、荒んだ環境にある子どもがおり、親自身にも支援を必要とする親が多い。ひとり親でなくても、虐待や障害、その外にも親の生活環境がひどい家庭が多いと思うが、それに対してこれからきめ細かい施策を考えてもらいたい。

○松本委員（意見）

このプランの理念のところ、先ほど「今、つながりが希薄になってしまっている」という意見があったが、そこを市民が一体となり、人とのつながりのなかで、何をしていったら良いかが重要なことであると思う。「人とのつながりの中で、市民が一体となって育てていく」ということは良いが、それをするために具体的に何をしなくてはいけないのかが、一番大事なことだと思う。耳あたりの良い言葉で流れないように、それをするために何が必要か、よく考えていただきたいと思う。

⇒子ども未来課

ご意見のとおり、非常に大切なことであると思う。今後検討して、新プランに良いかたちで取り入れたいと考えている。

⇒白木会長

行政計画であるので、理念と事業の両方を見据える必要があると思う。

○佐々木委員（意見）

いろいろな親と関わっている中で出てくる意見は、やはりもっと具体的なものが需要ということである。清水区では、出生率がだいぶ減ってきているようで、結婚する家庭や住んでいる若者の減少が考えられる。子育てのプランよりも前に、根本として子どもを産む・育てる環境が整っているのか。産婦人科医や助産師たちがよく言うことは、子どもの重要性をもっと考えてほしいということであり、その環境を整えるのが基本にあり、そこから始まるプランが必要ではないかということである。

実際に子育て世帯へのヘルパー派遣を事業としてやっても、介護の方にヘルパーが回ってしまい、それを請け負う側が両立できない状況があるという。ヘルパーの確保など、市民一体となるのであれば、どうやったら皆が一体化して子育てできるのか。

また、子どもの発達障害の施設や養育施設を建てようとして説明会が行われた際に、周りの住民からは、「子供の施設はいらない、うるさい」等、反対をされたことが実際にあった。それでは子どもを産めない、住めない、となってしまう。私たち大人側が子どもの重要性をまず知ってからでないとならないので、そのような現状を踏まえたプラン、基本理念を考えた方がよいのではないかと。根本的なところはそこから始まらないと解決には至らないこ

とを伝えておきたい。

⇒子ども未来課

子どものための施設、例えば保育所等を作る際に地域の方から反対されるということもあり、市でも近隣の方への説明をしに行くことや、民間の事業者が行う説明会に同席して理解を求めるという事例がある。

なかなか、市民にすぐに理解を得るのは難しいと思っているが、啓発を含め、PRに力を入れていきたいと考えている。

○村山委員（質問）

私は子育て中なので、この新プランではどこに一番重点が置いてあるのか、興味がある。「支援」と「育成」という言葉が多く、特に「支援」はよく出てくるが、その支援というものが市のほうでどのように考えられているのか。

また、資料4-1の36ページを見たときに、「子どもにとってあると良いと思う支援」では、何となく市民の人は「経済的な支援」を求めているのかと思われるが、市の方針は恐らくそうではなく、子どもの体験などを通して「支援」と言っているかと思われる。そのようなズレがあるように感じるが、いかがか。

⇒子ども未来課

先ほど、子どもを育てる環境についてのご意見があったが、そういった環境を整えて、子育てしやすい、子育てができるようなまちをつくっていくことも「支援」の一つになると考えている。

○村山委員（意見）

それならば、「支援」ではなくて「体験」など馴染みやすい言い方でないと伝わらず、わかりにくい。「支援」と言われると経済的な何かをしてくれるのか、市がお金を出してくれるのかというように捉われてしまう気がする。

⇒子ども未来課

経済的な支援に限らず支えていこうということなので、また今後も基本理念について検討していくが、言葉の使い方等をもう少し検討したいと思う。

○白木会長（意見）

「支援」という言葉は、教育や子育てなどに関わる者には違和感はないが、お金をつけることや補助金を出すように考える人がいると思うので、気を付けたいところである。

■議題（５）教育・保育の量の見込み及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて（資料５－１、５－２、５－３）

○白木会長（質問）

この量の見込みは、子ども・子育て支援事業に関して必要なもので出されているが、子ども・若者育成プランと一体化していく中で、青少年の分野でもこのような量の見込みを事業ごとに出していくのか。

⇒青少年育成課

青少年の分野ではこのような量の見込みの示し方はしない。取り組む事業を体系的に示していくことがプランの内容となる。

○白木会長（質問）

事業によって内容の特性があると思うが、このプランが一体化したときにどのように扱うのか。個別に必要なものだけ量の見込みを出していくのか。

⇒子ども未来課

ここで示している量の見込みについては、法によってそれぞれの市町で定めなければならないと定められているものである。

これ以外のものについては、先ほど子ども・子育て支援プランの市町村行動計画に基づく実績報告や、子ども・若者育成プランの実績報告で示したとおり、個別の事業で目標値を定めることになる。このような量というかたちではないが、それぞれ何らかの目標を持って進めていくことになる。

○望月ふみ子委員（質問）

資料５－３で示されている地域子ども・子育て支援事業には、子育て支援センターの事業が多く含まれている。「保育コーディネーター、子ども未来サポーターはそれぞれ３か所と１２か所で変わらないが、効果的な運用を考えたい」と説明されたが、どういうことを意味しているのか、よくわからなかったので、その意図を教えてください。

また、「ファミリー・サポート・センターは、子育て支援に一括して含める…」などと言われていたが、よくわからなかったのもう少し説明してもらいたい。

⇒子ども未来課

子ども未来サポーターについては、現在１２か所で運営している。箇所数を増やすのではなく、相談件数を増やすために色々なところに出かけ、活動範囲を広めることで、効果的な取り組みを始めているところである。当然にPR活動はしていくが、子育て支援センターの中

で待つだけではなく、例えば保健福祉センターの健診業務や、子育てのイベントなどの機会があればそこに出かけて相談を受け、周知もしていく。引き続きこのような取組を次のプランで進めていきたいと考えている。

また、ファミリー・サポート・センター事業の量の見込みについては、国の手引きでは一時預かり事業のほうに含まれるため、その一時預かり事業の中にファミリー・サポート・センターのニーズ量が含まれている。量の見込みについては、ファミリー・サポート・センターのほうで考えていかなければならない。

前の議題2のプランの考え方について、子ども・子育て支援プランは「支援」という言葉が、若者のほうは「育成」という言葉が入っていて、前回示した新しいプランの名称にはその言葉がないということで質問をいただいた。資料5-3では、あえて「支援」「育成」という言葉の整理をつけたところである。

プランの名称は「静岡市子ども・子育て・若者プラン」であり、「支援」「育成」という言葉は入っていない。基本理念にあるように、「支える」「育む」といった言葉のほうが伝わりやすいのではないかと考え、今回の基本理念の中では「支援」「育成」という言葉は使わずに示した。意見を踏まえて、言葉の使い方については検討させていただきたい。

○寺尾委員（意見）

放課後児童クラブについては整備されてきており、待機児童をなくそうという努力はよいと思うが、あまりにそちらの方に力点や視点が置かれ過ぎているのではないか。ある児童クラブでは、1年生だけで50人以上、ワンルームのようなプレハブで保育が行われている。その中には発達障害の子ども等もあり、一度怒り出すと手が付けられなくなることもあるが、その子たちがクールダウンする場所がなく、それを見た子どもが来たくなくなってしまうこともある。

数字を出すことは大事であるが、数字だけで見ないでほしい。心ある子育て支援というものをもっとやってほしい。

⇒子ども未来課

確かに、受け皿の確保ということで、平成27年から児童クラブ室の拡充整備を進めてきた。現在、待機児童ゼロを目指し、順調に待機児童数は減少してきているところである。施設整備を拡充するにつれ、ご意見のような問題について現場から声をいただくことがあり、あわせて、質の確保や環境整備等について意見をいただいている。そのような意見を、今後児童クラブ室の整備等にも反映させていきたいと考えている。

○白木会長

追加で意見があれば、「回答票」に記入し、事務局まで提出してもらいたい。

■報告事項（１）静岡市医療的ケア児等支援協議会について（資料６）

質問、意見等なし。

■ 白木会長（総括）

特に今日は基本理念に関わることで、資料４については事務局のほうで精査し、お花と支える手のイメージ図はよく考えたと思う。成熟すれば、支える手も静岡市民の皆で自然に育つと思うが、まだまだそういう段階ではなく、そこには支援が必要で、行政の手を借りないといけない。色々なかたちでプランとその下にある施策、事業を推進していただくようになっている。もう少し議論を深めないと、固まっていけない部分もあると思う。

従来２つあったプランをまとめて統合して１つの理念としてかたちあるものをつくっていくのは難しいところもあるかと思うが、引き続き協力を賜りたい。

（以上、会議終了）